

## 令和3年度第1回国立研究開発法人森林研究・整備機構契約監視委員会概要

1. 開催日時	令和3年6月4日（金）13:30～15:00
2. 場所	森林総合研究所特別会議室及び各センターTV会議室
3. 出席者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風間委員長、高橋委員、鈴木委員、平川委員</li> <li>・森林総合研究所、林木育種センター、森林整備センター、森林保険センター契約担当者等</li> </ul>
4. 審議等の概要	<p>(1) 前年度の審議結果に対する報告</p> <p>1) 審議案件のリストアップに一部ミスがあったことを踏まえて、今後は正確なものを提出することについて (報告内容) 今後は、資料作成の際にバックデータを提出させて再チェックし、正確な資料作成に取り組んでいく。</p> <p>2) 入札参加資格の設定と公告の周知方法について、再度検討し、さらに入札の競争性を高める努力をすることについて (報告内容) 入札参加資格を決めるに当たっては、①必要な能力、技術を有する業者の確保、②入札における競争性の確保、③円滑な契約事務の確保について考慮した上で、等級の拡大や地域条件の緩和等を検討したい。また、公告の周知方法については、これまで行った掲示場所に加え、工事等の施工地域に該当する市町村等へも公告の掲示を依頼するよう努めていく。</p> <p>3) 設備更新の際は、購入だけではなく、リースという選択肢も含めて検討することについて (報告内容) 設備の更新時には、点検保守を含めたリース契約も含め検討していく。</p> <p>(2) 令和2年度における契約状況 令和2年度の調達結果と要因の分析により、契約状況の報告を行った。</p> <p>(質問) 競争性のある契約額が前年度に比べて大きく増加している理由は何か。</p> <p>(回答) 中長期目標期間の切り替わりに当たって、複数年契約の件数が多かったことと、高額なシステム調達を含んでいることが増加要因となっている。</p> <p>(3) 令和2年度調達等合理化計画（自己評価の点検） 計画どおり実施した旨の報告後、項目毎の評価内容について点検を行った。</p> <p>(質問) 物品・役務の共同調達について、事務の効率化と経費の節減に効果があったとの説明であるが、前年度とほぼ同等の件数でどうして効果があったといえるのか。また、アンケートの実施</p>

後、参考としたことは何か。

(回答)

事務の効率化と経費節減の効果については、前年度との比較ではなく、これらの取組を実施しない場合との比較の観点から記述しているところ。

また、アンケートの回答に、人員確保の観点から、公告から契約までの期間をもっと長く取ってもらえれば入札に参加しやすいとの要望があり、その後の入札事務の参考とした例がある。

(4) 令和3年度調達等合理化計画（案）

計画の説明後、計画内容について審議を行った。

(質問)

一者応札・応募の改善のところで、仕様書作成時に記載項目の内容を必要最低限に狭めすぎると、研究者が本当に必要とするものが調達できないことにならないか。

(回答)

昨年度の一者応札案件の分析結果を踏まえた取組内容として追加した項目であるが、あくまで研究用機器の調達目的に支障のない範囲の仕様とする前提の下で競争性を高めていきたい。

(5) 競争性のない新規随意契約案件の説明

3件の案件について説明し、妥当であるとされた。

5. 審議結果の取りまとめ

審議事項については、すべて了承された。